

見沼たんぼと代用水と通船堀

シビルNPO 連携プラットフォームサポーター／アジア航測(株)
土木学会 教育企画・人材育成委員会 シビルNPO 推進小委員会委員

大友 正晴

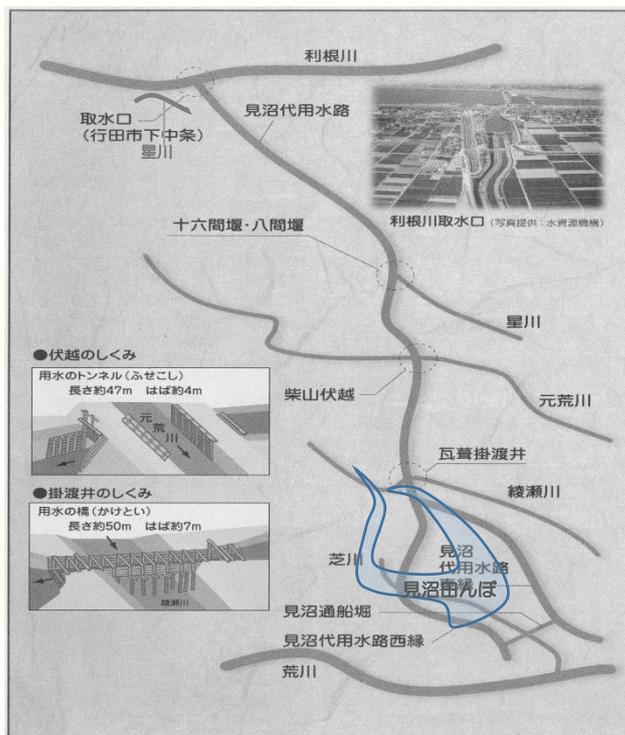


「見沼代用水・見沼通船堀」と言っても地元以外の方は、ご存じないと思います。筆者は、浦和市(現さいたま市)で生まれ育ちました。小学3~4年生の頃に社会科の授業で見沼代用水・通船堀を習い遠足で訪れています。当時の見沼代用水・通船堀は、ただたんぼの中にポツンと水路があるだけで、とくに遠足で行ったという記憶以外ありませんでした。そんな見沼代用水が、2019年9月4日に国際かんがい排水委員会(ICID)国際執行理事会において、「世界かんがい施設遺産」に登録されました。見沼代用水・見沼通船堀は、整備当時の土木技術を駆使した施設でもあります。

■世界かんがい施設遺産とは

かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際排水委員会(ICID)が認定・登録する制度で、2014年度に創設されました。

(柴山伏越)、河川を跨ぐ(瓦葺掛渡井)など土木技術を駆使して整備されました。瓦葺からはたんぼの東側と西側の縁沿いに分かれて整備され通船堀に至るものです。



見沼代用水経路略図

「見沼代用水と見沼通船堀」パンフレット
(さいたま市教育委員会編集発行)より



現在の利根川取水後の分水
(左から埼玉用水路、武蔵水路、見沼代用水)

1. 見沼たんぼ・代用水・通船堀

見沼たんぼは、右の「経路略図」のように、さいたま市東部の芝川沿いに広がる水田地帯で、江戸時代に約1,200Haの新田として開発されました。見沼代用水はその水源として整備された延長約60kmの水路です。現在でも見沼代用水は、見沼たんぼをはじめとした流域の水の供給源として機能しています。

見沼代用水は、利根川から取水(見沼代用水元坎・増坎)して既存河川の利用と新たに掘削した用水路で構成されています。途中の河川との分合流・横断には堰を設けたり(十六間堰、八間堰)、伏越し(サイフォンと言って地下横断するしくみ)